

郷土資料館特別展

「ものが語る 播磨町の歴史」

期間 10月23日(土)～12月5日(日)
 (休館日10月25日・11月1・4・8・15・22・24・29日)
 場所 郷土資料館
 時間 午前10時～午後5時
 入場 無料
 主催 播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館
 後援 播磨町歴史を語る会
 問い合わせ 郷土資料館 ☎0794 (35) 5000



▲80年前の音が今も出るよ

もちろん、シヨセフ・ヒコのものもあるよ。今回「The Narrative of A Japanese」(「日本物語」)が展示されるよ。これは、ヒコが自分の思い出を英文で書いたものだ。当時、最も正確な英語で通訳ができる人と言われていたシヨセフ・ヒコの素晴らしいことを知って欲しいな。一度、どこまで読めるか試してみてね。それから、今から80年以上前に、日本で初めて工場生産されたオルガンもあるよ。まだ音が出ると聞いて、準備のとき、そつと音を出してみたよ。すると、とてもやわらかい音が出たよ。きっと、このオルガンは播磨町の音楽教育の源をつくったのだからね。



▲佐伯作次氏(佐伯作次)の作品



▲衣装や道具などがよくわかる

とても傷みやすかったり、とても大切なもので普段は展示しないものを展示するよ。

どんなもの
展示するの?



「歴史の宝石箱」といわれる播磨町。播磨町に残る歴史資料は、決して多くないが、一つ一つは、日本の歴史を垣間見ることができるといっていいかもしれません。そして、この地を古代から、多くの人々が行き来したことを物語っています。今年も、古代からこの地で生きてきた人々の願いを分かりやすく展示します。

例えば、阿閑神社で江戸時代のお祭りの行列の様子を描いた絵巻。これを全部広げて見せません。なかなか迫力があるよ。さらに、傷みやすいので、普段は大切にしまわれているお祭りの行列を復元した模型を今年も展示するよ。とても素晴らしいもので、播磨町郷土資料館でしか見られないものだよ。



▲薬師如来座像(複製)

また、多くの人の注目を集めるのが「薬師如来座像」。薬師如来の坐像。これは「お薬師さん」と親しみを込めて言われているこの「薬師如来座像」には、複製にもかかわらず、開館当初、この前にお参りされた方から「お参りしたんだよ。そのくらい、人々が思わず拝みたくなる仏さまなんだ。」という声も聞かれました。それからちよつと珍しいのが圓満寺の「釈迦十六善神像」。緻密な描写に感心するだけでなく、播磨町の室町時代の村と村との関係を考える上で大切な資料だよ。さあ、何を書いているのだろうか。お楽しみに。

今年の
特徴は?



それは、皆さんに分かりやすくするために、遺跡君・弥生ちゃん、一つ一つのポイントを説明します。例えば、ここに、別府鉄道のカントラがあります。さてカントラはどのような用いたのか分かりますか。なかなか、文章では難しいですね。そこで遺跡君の登場です。



▲映画で駅員さんが持ってたね



かっこいいでしょう。これで、カントラは、手に持って列車に合図を送るために使っていたことがわかるよ。このように、できるだけ絵を入れて説明します。ぜひ見に来てね。

えっ、
線路や油絵
もあるの?



また、蓮花寺の「礼盤」も普通のものではないよ。思いがけないところに落書きがあった。姫路のお殿さまには内緒にしないといけないようなことを書いているよ。どこにどんなことを書いているのだろうか。見に来てね。それから、無量寿院の版木には、お寺の由来を書いていて、お参りした人に渡していたんだよ。多くの人に来ていたことがわかるよ。

そう、そう、線路や油絵も歴史を語るんだよ。意外かな。土山駅の古い跨線橋の柱に用いられていた線路には、1904年と入っているよ。そして「CARNegie」とも書かれているよ。このことから、また日本で良い線路が作れなかったころ、アメリカのカーネギー(製鉄会社)から線路を買っていたことがわかるよ。何げない街角の風景だけど、よく見ると日本の歴史が見えてくるんだね。それから、大切なものは、佐伯作次氏の油絵。これは「野添ふるさと館」に普段は展示しているものです。浅原清隆氏と同じように、絵を勉強していました。そして、戦争に行く前の1935年に描いておいた絵です。とてもしっかりとした絵で、戦争がなければ、その後も良い絵をたくさん描いていたでしょうね。

記念フォーラム 「播磨町の歴史を語る」(仮)

- ▼発表者
浅原 重利氏 (播磨町文化財保護審議委員長)
井上 朋義氏 (播磨町文化財保護審議委員)
- ▼日時
11月28日(日)
午後1時30分～3時30分
- ▼場所
中央公民館
- ▼入場
無料
- ▼主催
播磨町郷土資料館
- ▼問い合わせ
郷土資料館 ☎0794 (35) 5000

